【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年3月25日(2025.3.25)

【公開番号】特開2025-23160(P2025-23160A)
【公開日】令和7年2月14日(2025.2.14)
【年通号数】公開公報(特許)2025-028
【出願番号】特願2024-209367(P2024-209367)
【国際特許分類】
*Ａ６１Ｂ　5/00(2006.01)*
*Ａ６１Ｂ　5/145(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/00　１０２Ｅ
Ａ６１Ｂ　5/145

【手続補正書】
【提出日】令和7年3月10日(2025.3.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ソフトウェアアプリケーションを動作させる方法であって、
第１のソフトウェアモジュールの１つ以上の命令を実行している処理回路で、第２のソフトウェアモジュールのラッパーを呼び出すステップと、
前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーの１つ以上の命令を実行している前記処理回路で、前記第２のソフトウェアモジュールを呼び出すステップと、
前記第２のソフトウェアモジュールの１つ以上の命令を実行している前記処理回路で、結果を生成するステップと、
前記処理回路で、前記結果を前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーに返すステップと、
前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーを実行している前記処理回路で、前記結果を条件と比較することによって、前記結果を修正する必要があるか否かを判定するステップと、
前記結果が不完全であり、修正する必要があると判定した場合、前記処理回路で、前記条件を満足する修正結果を前記第１のソフトウェアモジュールに返すステップであって、前記修正結果は、前記修正結果を前記第１のソフトウェアモジュールで使用できるように前記結果を修正することを含むステップと、
前記結果を修正する必要がないと判定した場合、前記処理回路で、前記結果を修正されていない形式で、前記第１のソフトウェアモジュールに返すステップと、
を備えたことを特徴とする方法。
【請求項２】
前記条件との前記比較に基づいて、前記処理回路によって、通知を生成するステップを更に備えたことを特徴とする、請求項１記載の方法。
【請求項３】
前記ソフトウェアアプリケーションが、検体監視アプリケーションであることを特徴とする、請求項１記載の方法。
【請求項４】

前記第１のソフトウェアモジュールが、生体内で使用するように構成された検体センサーを含む、センサー制御装置から受信した検体データを、アルゴリズム的に処理するように構成された、センサーインタフェースモジュールであることを特徴とする、請求項３記載の方法。
【請求項５】
前記条件との比較によって、前記結果にエラーがあるか否かがチェックされることを特徴とする、請求項１記載の方法。
【請求項６】
前記条件との比較によって、前記結果が不完全であるか否かがチェックされることを特徴とする、請求項１記載の方法。
【請求項７】
前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーの前記処理回路は、前記結果を追加することにより前記結果を修正することを特徴とする、請求項１記載の方法。
【請求項８】
前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーの前記処理回路は、前記結果を変更することにより前記結果を修正することを特徴とする、請求項１記載の方法。
【請求項９】
コンピュータ装置であって、
処理回路と、
複数の命令を記憶して成る非一時的メモリと、
を備え、
前記複数の命令が、実行されると、前記処理回路に、
第１のソフトウェアモジュールから、第２のソフトウェアモジュールのラッパーに対する呼び出しを生成させ、
前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーから、前記第２のソフトウェアモジュールに対する呼び出しを生成させ、
前記第２のソフトウェアモジュールで、第１の結果を生成させ、
前記第１の結果を前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーに返させ、
前記第２のソフトウェアモジュールの前記ラッパーの命令を用いて、前記第１の結果を条件と比較することによって、前記第１の結果が不完全であり、修正する必要があるか否かを判定させ、
前記第１の結果を修正する必要があると判定した場合、前記条件を満足する第２の結果であって、前記第１の結果を修正して形成し、前記第２の結果を前記第１のソフトウェアモジュールで使用できるようにする前記第１の結果の修正であることを含む第２の結果を、前記第１のソフトウェアモジュールに返させ、
前記第１の結果を修正する必要がないと判定した場合、前記第１の結果を前記第１のソフトウェアモジュールに返させる、
ことを特徴とする装置。
【請求項１０】
前記複数の命令が、実行されると、前記処理回路に、前記第１の結果を前記条件と比較した結果に基づき、更に通知を生成させることを特徴とする、請求項９記載の装置。
【請求項１１】
検体監視アプリケーションが前記メモリに記憶されて成り、前記第１のソフトウェアモジュールが、前記検体監視アプリケーションのソフトウェアコンポーネントであることを特徴とする、請求項９記載の装置。
【請求項１２】
前記装置が読取装置として構成されて成り、前記第１のソフトウェアモジュールが、生体内で使用するように構成された検体センサーを含む、センサー制御装置から受信した検体データを、アルゴリズム的に処理するように構成された、センサーインタフェースモジュールであることを特徴とする、請求項９記載の装置。

【請求項１３】
前記第１の結果を前記条件と比較することによって、前記結果にエラーがあるか否かがチェックされることを特徴とする、請求項９記載の装置。
【請求項１４】
前記第１の結果を前記条件と比較することによって、前記結果が不完全であるか否かがチェックされることを特徴とする、請求項９記載の装置。
【請求項１５】
前記第１の結果の修正は、前記第１の結果を追加することを含むことを特徴とする、請求項９記載の装置。
【請求項１６】
前記第１の結果の修正は、前記第１の結果を変更することを含むことを特徴とする、請求項９記載の装置。